

今年度、地域の育成会長となり、他の育成会役員の皆さまと共に育成会行事を行いました。地区の自治会や関係機関の協力を得ながら、名簿を作成して、親子や祖父母を交えての旅行や夏休み中のラジオ体操などを企画して、行事を通して多くの交流を持ってました。

しかし、家族と楽しむための旅行や体力づくりのためのラジオ体操をしているだけで、青少年の健全育成につながるのとも思いました。今回、都留市の広報に私の拙い文章を寄稿することになり、私たち大人が何をできるのかということをつくづく感じました。

そこで、寄稿文のテーマとして思い浮かんだのが『読書』についてです。過日の某新聞の文化欄に次のような記事がありました。

(※引用)平安時代の『更級日記』に、田舎育ちの貴族の娘が『源氏物語』を読みふける有名な場面がある。読書を『本をひとり黙って読むこと、自発的に、たいていはじぶんの部屋で』と定義すれば、多分、あのあたりが始まりじゃないか。日本人の読書には、千年以上の歴史があるということだ。

この記事を読んで、日本人の読書の歴史が古いものであることに驚くと共に、心を耕し豊かにする読書が何よりも大切だと思いました。ま

た、子どもたちが読書に親しむきっかけを大人が与え、共に読書に親しむことの大切さを痛感しました。

私が小学生の時は、一つの教室が理科室と図書室に使われており、蔵書数も今の時代に比べると、とても少なかったです。以前に娘の通う小学校で、夏休みに親子で図書室へ来て本を借りてくださいとの呼びかけがありました。図書室に入って、まず蔵書数の多さに驚きました。また、工夫されたおすすめの本の紹介コーナーもあり、読書への意欲が高くなりそうな雰囲気でした。

また、市立図書館に行きますと、最新刊の書籍コーナーや都留市にゆかりのある作家のコーナーなど、小学校の図書館と同様に多くの工夫がされており、昔に比べて恵まれた読書環境が整えられています。

お子さんがいらっしゃる家庭では、夏休み中の課題として、『家読100選』の家族部門に取り組んだ方もいると思います。親子で同じ本を読んで、心を通い合わせるとても良い取組だと思えます。いろいろな機会を通して、読書に親しませ、親子の絆を深めることが健全育成につながるのではと感じました。

※引用：平成29年1月4日読売新聞

連載・青少年健全育成シリーズ 第307回

「読書のすすめ」

青少年の声かけあいさつ運動の推進  
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」  
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。  
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？  
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています  
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月  
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。  
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄